

大豆(えんれのそら)の栽培ごよみ

良質大豆生産のポイント

- ◎ 排水の良いほ場づくり
- ◎ 土づくり
- ◎ 適正播種作業(5月末～6月中旬)
- ◎ 雑草防除
- ◎ 的確な中耕培土
- ◎ 干ばつ時のうね間かん水
- ◎ 病害虫の適期防除
- ◎ 適正な収穫・乾燥
- ◎ 地力増進作物(ヘアリーベッチ)の作付

大豆の栽植本数の目安 (苗立率90%)

	作型	播種時期	条間×株間=本数	種子量(播種量)
中粒	単作	5月末～6月上旬	80cm×7.0cm=16,000本	4.8kg/10a
	麦跡	6月中旬	80cm×6.0cm=18,000本	5.4kg/10a
大粒	単作	5月末～6月上旬	80cm×7.0cm=16,000本	5.7kg/10a
	麦跡	6月中旬	80cm×6.0cm=18,000本	6.4kg/10a

[随時防除]

使用機械名	対象病害虫	薬剤名	10a当り散布量	散布時期	収穫前日数	総使用回数
動力散布機	ウコンメイガ	サイフックス粉剤	4kg	害虫発生時	7日前	2回以内
	ハスモンヨトウ・アブラムシ類	トルボ粉剤DL			14日前	
	マメシクイガ※	トルボ粉剤DL		8月中下旬	7日前	3回以内
動力噴霧機	ウコンメイガ	アブラムシ粉剤DL	4000倍 200ℓ	害虫発生時	7日前	2回以内
	ハスモンヨトウ				7日前	
無人航空機	マメシクイガ※			8月中下旬		

※マメシクイガは連作ほ場で多発生するので、連作を避けることが重要

時期	10月～11月	5月	6月	7月	8月～9月	10月
生育期	排水対策・土づくり期間	播種準備～播種期	生育初期～培土期	開花期	莢伸長期～子実肥大期～黄葉期	収穫期

主な作業内容

○ 額縁排水・弾丸暗渠

・弾丸暗渠と心土破砕による透水性を確保する。

・額縁排水を前年積雪前までに実施する。

① 土づくり

栽培指針は「大豆」を参照して下さい。

地力増進作物(ヘアリーベッチ)の作付。

② 種子消毒

・麦跡も土づくりは必要です。

・堆きゅう肥を醗酵けいふんを施用する。

・苦土石灰を散布する。

③ 適正播種作業 (5月末～6月中旬)

※播種深度3cm程度

・耕起・起溝・起溝種

・好天時に1日で完了する

④ 第1回目培土 (播種後3週間頃)

・培土の効果

- ①排水促進
- ②根量・根粒の増加
- ③倒伏防止
- ④雑草抑制

⑤ 第2回目培土 (播種後5週間頃)

・大豆バサグラン、ポルトフロアブルの散布時期の目安

⑥ 干ばつ時のうね間かん水

・開花後、3～4日晴天が続くほ場が白く乾いたら、短時間のかん水を行う。

・ほ場全体に水が行き届いたら、すみやかに排水する。

・この時期の干ばつは、莢数が減り、減収につながる。

⑦ 第1回目病害虫防除 (8月上旬)

・ウコンメイガ(ハマキ虫)が発生したら、すみやかに防除する。

○ 害虫防除(随時防除)

⑦ 第2回目病害虫防除 (8月中下旬)

・刈取前は、午前 9時～午後 4時頃まで、地際から10cmで高刈りする。

・子実水分18.5%以下で収穫する。

・コンバインの清掃はこまめに行う。

○ 適期収穫

・刈取前の青立ち株、雑草を除去する。

○ 乾燥・調製

・仕上げ水分15.0%以下。

・調製施設を利用する。

・均一な大豆に仕上げるため、農協の乾燥機を利用する。

← 播種後出芽前の除草剤散布(トルボ/サイフ、プロールプラス) → ← うね間かん水期間 → ※雑草は早めに除去する。

栽培管理のポイント

① 土づくり (pH6.0以上を目標)

資材名	10a当り施用量	散布時期
苦土石灰	100kg以上	耕起前
堆きゅう肥	2㎡	
醗酵けいふん	100～150kg	

② 種子消毒

対象病害虫	薬剤名	処理方法
アブラムシ類 ネキリムシ類 タネバエ フタスジヒメハムシ 茎疫病 リゾクトニア根腐病	クルーザーMAXX	※種子1kg当り原液8mlを塗抹する

○ 施肥基準

肥料名	施肥区分	10a当り施肥量	施肥時期
基肥555	全層	単作	20kg
		麦作跡	30kg
	側条	単作	15kg
		麦作跡	20kg
LPs大豆専用	肥効調節	単作	20kg

※基肥555は吸湿性が高いため、開封後は早めに使用する。

③ 適正播種作業

- ・耕起は碎土率、は種精度を高めるため丁寧に行う。
- ・播種作業速度は、歩くような速さで！(30a/70分)(欠株による苗立ち不良を出さない)
- ・播種深度は3cm程度とし、深まき厳禁！
- ・うね立て同時播種等の実施により、できる限り表面排水に努める。
- ・除草剤散布時は、除草効果を高めるため、播種直後、土の湿っている状態ですみやかに散布する。
- ・基幹排水溝と額縁排水溝を連結する。
- ・排水側の枕地に排水溝を増設し、排水を促進する。

④ 第1回目培土(播種後3週間頃)

- ・本葉2～3葉期に子葉がかくれるまで培土する。
- ・培土時に基幹排水溝と排水口へ連結する。

⑤ 第2回目培土(播種後5週間頃)

- ・本葉4～5葉期に初生葉がかくれるまで培土する。
- ・培土時に基幹排水溝と排水口へ連結する。

⑥ 7月下旬～8月の干ばつ時のうね間かん水

- ・開花後、3～4日晴天が続くほ場が白く乾いたら、短時間のかん水を行う。
- ・ほ場全体に水が行き届いたら、すみやかに排水する。
- ・この時期の干ばつは、莢数が減り、減収につながる。

⑦ 防除基準

[基本防除]

使用機械名	対象病害虫	回数	薬剤名	希釈倍数	10a当り散布量	収穫前日数	総使用回数
動力散布機	紫斑病	1回目	Zボルト粉剤DL	4,000倍	3kg	—	—
	紫斑病 カメムシ類	2回目	スミオナルクト粉剤DL				
動力噴霧機	紫斑病	1回目	プランダム乳剤25	4,000倍	200ℓ	7日前まで	2回以内
	カメムシ類	2回目	カスケード乳剤				
無人航空機	紫斑病	1回目	プランダム乳剤25	24倍	0.8ℓ	7日前まで	2回以内
	カメムシ類	2回目	カスケード乳剤	32倍			
	紫斑病	2回目	アミスター20フロアブル	2,000倍	200ℓ	7日前まで	2回以内
	紫斑病	2回目	アミスター20フロアブル	16倍		7日前まで	2回以内

[雑草防除]

区分	除草剤名	対象雑草	10a当り散布量	使用時期	総使用回数
播種後(土壌処理)	トルボ/サイフ 粒剤2.5	畑地1年生雑草	6kg	播種後出芽前	1回
	トルボ/サイフ 乳剤		300ml/水100ℓ		
	プロールプラス乳剤		500ml/水100ℓ		
生育期(全面散布)	大豆バサグラン液剤	畑地1年生雑草(イネ科を除く)	100～150ml/水100ℓ	大豆第2葉期～開花前 収穫45日前まで	1回
	ポルトフロアブル	イネ科雑草	200～300ml/水100ℓ	イネ科雑草3～10葉期 収穫30日前まで	1回
生育期(うね間散布)	ラウンドアップ	畑地1年生雑草	200～500ml/水50～100ℓ	雑草生育期(うね間処理) 収穫前日まで	2回以内
	マックスロード		300～500ml/水100～150ℓ	雑草生育期(うね間処理) 収穫28日前まで	3回以内
	ザクサ液剤		300～500ml/水100～150ℓ	雑草生育期(うね間処理) 収穫28日前まで	3回以内
	パスタ液剤		300～500ml/水100～150ℓ	雑草生育期(うね間処理) 収穫28日前まで	3回以内